

夫婦問題カウンセラー  
岡野 あつこさん 70歳

## 大腸がん

詫が回復したので大連続しながら群馬に向かい、事なきを得ました。ただ、そこから何か食べるべると具合が悪くなる日が続き、便秘かつ食べられない状態になりました。近所の病院を受診したら「便秘ですね」と便秘薬が処方されるのですが、一向に効きません。

用の病院にも数多く行く  
つてみましたが、胃腸薬  
や痛み止めが処方される  
ばかりでまったく改善せ  
ず、体重はガタ落ち……。  
おまけに私が受け持つカ  
ウンセラー養成講座の授  
業中に大音量でお腹が鳴  
るようになってしまい、  
どうどう大きな総合病院  
の消化器内科を受診しま  
く、「大きな病院へ行っ  
専門の病院へ行こうと、  
赤坂にある有名な便秘外  
来を受診して血液検査を  
しました。すると、炎症  
反応を示す値が異常に高  
い便祕ならばいって便祕  
も「便祕です」と言われ  
て便祕薬が処方されたの  
です。

「ください」と言われました。紹介できる病院を2ヵ月先の受診になるまで探し、早く受診できる院を探して予約を入れたものの、その前に激痛が来て救急車を呼ばざるを得なくなつたのです。

はの結果「腸閉塞です」と、もらつたのです。そようと今までどこからも言われなかつた病名を告げられました。そして即入院となり、翌日にはCT検査で大腸がんが発見されました。そこで即手術を受けましたが、術後は順調に回復しました。しかし、術後2ヶ月後には再び腸閉塞の症状が現れました。また、この間、私は毎日のように便通を保つために、お出でにならざるを得ませんでした。そこで、私はこの状況を医師に相談したところ、「これは癌によるもので、手術後も癌細胞が残っている可能性があります。」と言われました。そこで、私は手術後も定期的に検査を受け、早期発見を目指すことを心がけています。



どの病院でも「便秘」と診断されて専門外来を受診すると：

私の周囲で大腸がんに 終わり、いよいよ明日が ほどの腫瘍を切除したと で、いつか後日談をする  
なったという話は聞いた 手術となりました。しか 聞いています。  
ことがなかったのです し、そんなタイミングで ときのため、息子に手術  
が、自分が公表したら、なんと栄養失調が発覚し の確率で命を落とす可能 で、いつか後日談をする  
「私も」「じつは私も」 ていったん手術は延期 性がある。それは覚悟し ときのため、息子に手術  
と、たくさん声が聞こえ に。私の記憶が正しけれ でもらいました。もちろん  
てきました。やはり少し ば1日5個ぐらいプリン 手術同意書にハンコを押 术后にステージ3では  
恥ずかしいイメージがあ を食べて、2日後ようや しました。でも「私は絶 なく2だったことが判明 たので放射線も抗がん剤  
つて、他人に言いにくい く手術になりました。開 対70%に入る」とポジティ しました。転移がなかっ たので放射線も抗がん剤  
病気なのだと改めて思 腹手術によって6・5kg イブにどうえていたの たので放射線も抗がん剤  
いました。

もなく幸いでした。きっと自分のポジティブさががんを抑え込んだに違いないと思っています。

出家の儀式を受けました。  
福島県のお寺を引き継ぎ、女性の生き方支援や子供たちの人生相談などをやっていたらと考案をしています。これが最後の社会貢献。「お布施を集めようなどとは一切考えないよに」と占い師に諭されたので、煩悩は捨ててやっていきます。



「30%の確率で命を落とす」と説明された

信用しきれていなかつた  
ので、信頼できる占い師

ててやつていきます。

▽おかの・あつこ 19  
54年、埼玉県出身。立  
教大学大学院21世紀社会  
デザイン研究科修了。デ  
ザイン相談室」を設立。  
これまでの相談件数  
約4万件。YOUTUB  
e「岡野あつこチャンネ  
ル」は登録者数6万人以  
上。カウンセリング、講  
演、執筆とともに、夫婦  
問題カウンセラー養成に  
も力を入れている。近著  
「なぜ『妻の一言』は力  
チンとなるのか?」(講  
談社)ほか著書多数。

内を空にするまで1週間  
ぐらい便をためる袋をぶら下げて生活しました。  
先生が1日1回、便の出  
具合を見に来るのです。  
私はまあまあうずうずし  
い方ですけど、さすがに  
恥ずかしくて病棟を散歩  
することもできないでい  
ました。すると、やさし  
い看護師さんが紙でカバ  
ーを作ってくれてありが  
たかったです。

ストレスでがんになつた。5年で寛解になり、今は予防のための検診に余念がありません。先日も小さい大腸ポリープを除去しました。術後は痛くて大変な間をしましたが、痛みが引いてやれやれと思ったらもう退院。入院は13日間でした。

「でも、おまえが『外見』を『内見』にされたくない」と言わわれた。紹介できる病院の2ヵ月先の受診になる。聞き、早く受診できるまで院を探して予約を入れ、ものの、その前に激痛が来たので、救急車を呼ばざるを得なくなつたのです。

救急車の中で私はからりつけの東京女子医大六慶應大学病院を希望していましたが、どこもヘツルがいっぱいです。救急隊は説得されて新宿の総合病院に運ばれました。すぐには宿直の先生しかいない夜間のことです。

レントゲンと血液検査の結果、「腸閉塞です」と今までどこからも言われなかつた病名を告げられました。そして即入院となり、翌日にはCT検査により「大腸がん」が発覚し、腸閉塞を併発していることが判明。画像から大腸がんはステージ3Aと診断されました。ステージ3は転移があることを示すもの。これまでずっと大腸がん検査を避けてきたことを後悔しました。

でもうったのです。そうしたら相性バツチだつたの。そつじゃなかつたら病院を替えようと思つて、いたけど、安心して手術を受けることができました。